

森のアート展 Vol.24

森の
アート展

喉元を過ぎれば Once Past the Throat 岩井春華

2026年1月10日[土]—3月15日[日]

開館時間：午前9時30分～午後5時

休館日：月曜日（1月12日、2月23日は開館）

主催：豊田市民芸館

会場：豊田市本多記念民芸の森（田舎家・旧海老名三平宅・松近亭・管理棟和室）

観覧料：無料

岩井春華／「夢の既視感」を主題とし、一定の動きを繰り返す装置や映像を用いたインスタレーション作品を制作している。無意識や時間軸を意識し、脈絡のないオブジェクトを連動させることで、夢の既視感を再現する空間を目指している。京都市立芸術大学大学院修了後、元仏具倉庫や古民家など、場所の特徴に着目した作品を展開している。

豊田市本多記念 民芸の森

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町石平60-1 TEL:0565-46-0001

<https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/mingeinomori/>



〈電車〉名鉄三河線平戸橋駅より徒歩約5分

〈お車〉（名古屋方面から）猿投グリーンロード・枝下ICから約10分

（多治見・岡崎方面から）東海環状自動車道・豊田勘八から約10分

関連事業

■アーティストトーク ●内容：出品作家が展示作品の説明をしながら各会場を巡ります。 ●日時：1/11（日）、2/22（日）いずれも午後2時から（40分程度） ●集合場所：田舎家 ●定員：15名程度 ●申込み：不要 ●参加無料

■ 展覧会コンセプト

多様性が叫ばれる一方で、人にはどこか共通する遺伝的な感覚や記憶が存在しているのではないか。

視覚・触覚・聴覚・嗅覚などの五感は、感覚や記憶を支えるセンサーであり、人によって異なる体験をもたらす。しかしその差異の奥には、普遍的な感覚が潜んでいる。今回の作品群は、そうした共通の遺伝的感覚や記憶を自覚してもらうための装置である。

私たちが日常で何気なく感じていることは、状況や環境に応じて様々な感情や記憶に結びつく。例えば目覚まし時計に好きな音楽を設定しても、やがてそれが眠りを妨げる不快な音として記憶され、嫌悪の対象へと変わってしまう。このように無意識のうちに感情や記憶に結びついていく出来事こそ、日常の本質なのではないだろうか。

人は社会や組織の規律に従って行動する一方で、個人の感覚を守る社会には不合理が生じる。逆に個人の感覚だけに頼って生きれば、社会的に淘汰される。だからこそ私たちは、感覚や経験、記憶を言語や絵画といった手法を通じて共有し、社会や文化を築いてきた。しかしその方法では、齟齬なく感覚や経験を伝えるには限界がある。

会場となる豊田市本多記念民芸の森には、和室や茶室、歴史ある建物が点在している。これらの空間は、白い壁の展示室とは異なり、壁や木材の質感、光と影の落差といった「場の記憶」を宿している。作品群と空間の固有性が重なり合うことで、遺伝的記憶や感覚を呼び覚ます通過儀礼的な体験が、より鮮明に浮かび上がるのではないだろうか。

ここで試みるのは、言語や絵画にとどまらず、視覚・聴覚・肌感覚を駆使し、感覚そのものを直接鑑賞者に伝える方法である。個人的な超視覚的体験でありながら、多くの人々に共有される——そのような夢の性質に着目した。夢は個人的な感覚であると同時に、現実と意識の境界に位置するものである。

本展では、現実空間において体験する「夢の既視感」を定義し、遺伝的な記憶を手がかりに、個人と社会の関わり、人がひととして在ることの形を見つめ直す場を提示する。

■ 豊田市本多記念民芸の森とは

豊田市名誉市民・本多静雄の邸宅のあった場所です。本多静雄は、内閣技術院を退官後に郷里の豊田市に戻り、昭和21年(1946)平戸橋町に居を構えました。本多はこの場所を拠点に実業家として活躍する一方、精力的に古陶磁の研究や民芸品の収集に取り組みました。この場所は、平成5年に民芸普及のため豊田市に寄贈され、その後、敷地・建物を整備して平成28年4月に「民芸の森」として一般公開を始めました。令和6年4月からは、本多静雄が収集した資料を民芸館の「さなげ古窯本多記念館」から集約し、「本多記念民芸の森」と名称を変更。現在、駐車場を含めた民芸の森の敷地は1万4千㎡で、この広大な敷地の中には様々な建物とモニュメントが点在しています。



■ 豊田市名誉市民 本多静雄

本多静雄は、1898年豊田市生まれ。電気通信事業と科学技術の向上に献身するとともに、古陶磁器の研究に取り組み、猿投窯を発見。民藝運動の創始者柳宗悦との出会いをきっかけに民藝運動に参加。名古屋民藝協会会長や日本民藝協会役員を務め、豊田市民芸館の設立に貢献、多くの民芸品を収集し、豊田市民芸館に寄贈する。貴重な資料や出土品の収集、研究をはじめ、郷土文化の発展に貢献した功績により、1977年に豊田市名誉市民となる。1987年杉本美術館の初代館長に就任。1999年102歳で永眠。



森の
アート展